

# 南部小学校授業研究会資料

060703 寒河江市教育委員会学校教育課指導推進室 佐竹

## <人と自然とのかかわりを通して>に関わって

### 『自ら輝く子供たち』

有田和正監修・静岡県藤枝市立高洲南小学校著（文教書院）

「かかわりあうことの重要性は増していく」

・「かかわりを通して、個が高まる」

①生活の中でいかにかかわっていくか、立ち止まって考えていこう

・「かかわり合って学んでいくとは、どういうことだろうか？」

↓

・まず、生活の中の小さな一つ一つから、「その子にどうかかわっていくか、そのことにどうかかわっていくのか」子供たちがそうした視点をもてるよう、まず働きかけ、そして共に考えていきたい

②授業の中でかかわり合うことは、「聴く」「語る」の一体化から

・ある友達だちの発言について、自分はそれをどうとらえたのかを自分の言葉で言い換えたり、自分の考えと比べて確かめたり、わからないことはそこで問い直したり・・・という主体的な「聴く」姿は、「自己決定しながら聴いている」姿といえるだろう。そこで発するつぶやきは、どこからか「聴く」で、どこからか「語る」か、わからないほど、その相手に心を寄せ、その考えを自分のものにしていくといえるだろう。

③「かかわる力」が「追究する力に」

・1年生のKさんは人に大変興味があり、「何しているの?」「何で?」と積極的に質問してくる。そして、会話しているうちにまわりの人々のこと、まわりの状況、先にある行事等を、どんどん把握し吸収していく。その吸収力、柔軟性をみると、Kさんにとっては、「かかわる力」がそのまま「追究の力」になっているといえる。

## <子どもが「生きる力」を発揮する>に関わって

### 『子ども学入門』～「子どもを捉え育てる」力量を高める～

藤井千春（明治図書）

「子どもを鍛えて育てる」

つまり見栄えのよい結果を残すことではなく、過程でエネルギーを全力で使わせ、足腰と精神が鍛えられたという活動がなされることが重要である。このことが「生きる力を育む」ことをめざす学習活動の本質といえる。「子どもが育っている」という姿において、学習活動の成果は示されなければならない。それが学習活動を指導・支援する上での方向性である。

第12話「どうしてニワトリさんたち、みんな逃げてしまったのだろうか?」

第13話「セロテープやガムテープは使ってはいけません」

第14話「きちんと野菜づくりについてのお勉強をしてから、また来なさい」

第15話「自分たちで教頭先生に説明してほしいなさい」

第16話「マニュアルを作成して子どもたちに渡してあります」

第17話「花壇ができた後、その管理はどうなるの?」

第18話「40台くらいはできるとできると思ったんだけど」

第19話 親切?それともお節介?